

徒然なるままに

JA3AA 島伊三治

A22AA, AA6AA, AH3AA, BU2AA, BY4AA, BY9AA, C21AA, CE2AA, CE8AA, CP5AA, CP6AA, CU3AA, CX1AA, DA1AA, DJ2AA, .DL3AA, DL7AA, DL0AA, DM3AA, DM5AA, EU1AA, EW1AA, EW2AA, FO8AA, FU8AA, FW0AA, H40AA, HL1AA, HP3AA, JA1AA, JA2AA, JA4AA, JA5AA, JA6AA, JA7AA, JA8AA, JA9AA, JA0AA, JT1AA, K6AA, K7AA, KA9AA, KC6AA, KH6AA, KH7AA, KR6AA, KV4AA, N4AA, N6AA, N8AA, OF1AA, OG2AA, OG3AA, OH1AA, OH2AA, OH3AA, OH4AA, OH6AA, OH7AA, OK7AA, OM1AA, OM3AA, OM0AA, OR6AA, OZ1AA, R3AA, RA0AA, RA3AA, RA4AA, RB5AA, RH8AA, RN9AA, RW3AA, RW4AA,



S59AA, SK5AA, SP5AA, TG0AA, UA3AA, UA9AA, UC2AA, UC3AA, UF6AA, UH8AA, UI8AA, UK8AA, UK9AA, UL7AA, UO5AA, UT5AA, UV1AA, UW0AA, UW3AA, UZ0AA, VE8AA, VQ9AA/D, VQ9AA/F, VR1AA, W1AA, XQ3AA, XU1AA,

YU30AA, XV3AA, YK1AA, YO3AA, YT3AA, YT7AA, YU1AA, YZ1AA, 7P8AA, 7Q7AA, 9A1AA, 9A9AA, 9G1AA, 9G5AA, 9M2AA, 9X5AA.

細かい活字でコールサインを並べてどうしたのと、お思いになることでしょうか。実はこれは私がコンファームしたサフィックスがAAの局名です。なかなか100まで達しませんでした。久しぶりに数えてみたら116局ありました。これ以外に未コンファームが40局程あります。次は150局を目指します。ところで、皆様方が交信された局のコールサインのサフィックスで一番多いのはどの文字かご存知

ですか?。それは圧倒的に多いのがAAなのです。私のLOGから調べますと、ABが30局、BBが17局でした。クラブメンバーと同じサフィックスの交信局数は、UB-7, AER-6, USA-4, CZY, GAHがともに2、AOP, BOA, PYC各1, BEQ-3, AZAは何故か多くて9局でした。



度もあり、いきなり汗の噴出す真夏の世界に来てしまいました。昨年も経験しているはずなのにやはり初日は厳しかった。この日から17日に帰国するまで2週間の真夏を満喫しました。

XV2A Nguyen Bac Ai さん宅を訪問して免許状を受け取り翌日の国内線でホーチミンからダナン経由目的地のホイアンへと向かいます。

での運用時にもCWの要望があり、結果として使い慣れないストレートキーでの運用となりました。スピードは出ないし、たつきにくいし肩はこりこりになるはでさんざんでした。根気良くお相手いただきました各局 有難うございました。

XV3AZA 運用中

JP3AZA ベトナムに行く

JP3AZA/XV3AZA 河田至弘

出発まで

昨年に引き続き今年もベトナム中部の古都ホイアンからXV3BV及びXV3AZAの運用を行いました。当初、昨年運用したメンバー5人全員の参加をと言うことで話を進めてきましたが、1名は仕事の都合で参加出来ず、2名は体調が悪くドクターストップと相成り、結果としてJA9BV 亀山さんと私JP3AZAの二人だけのやじきた道中となりました。



飛行機を降りると真夏だった

ベトナムは今年からビザが不要になり最大限の2週間をフルに使おうと3月3日まだ寒い関西空港からホーチミン直行のベトナム航空の飛行機に乗ってベトナム・ホーチミンへと向かいました。到着時の空港周辺の気温は34度で、ホーチミン市内は36

国営のホイアンホテル

CWはXV3BV 亀山さんにお任せ

アンテナの建設と運用

ホイアンはベトナムでも有数の古都でいろいろ風光明媚なところが数多くあり、1600年代の日本の幕府役人谷弥次郎兵衛とホイアンの女性との恋愛物語が語り継がれ墳墓も残っていて対日感情の良いところです。

アンテナ建設は投宿したThuy Duong3ホテルの全面協力もあって屋上にバンザイアンテナと3.5/7MHz用のダイポールアンテナを張ることが出来、少なくとも地上高20mを確保できましたが、ベトナムではこの時期には珍しい雨に見舞われ、それも3日間降り続きで調整完了までに相当な時間を必要としました。調整の結果これらのアンテナは全バンドにおいてVSWRを1.5以下にすることが出来、本格的な運用が始まりました。

ところがハブニングが起こり、私のエレキが故障で、1年間ベトナムで休んでいる間に動かなくなっていました。そんな訳でCWの運用はもっぱらXV3BV 亀山さんにお任せしましたがひとりぼっち

今回の運用ではJA4DW 小野さんのご協力によりFL2100Zの終段の真空管572Bを日本から持参しましたので安心して運用出来るようになり、各バンドとも出力500Wを確保出来ましたが、やはり3.5MHzの運用は厳しかったと思います。現地の3.5MHzの状況は物凄いトロピカルノイズがあり、Sメーターは常時S9+10dB位のレベルを振っています。QSOするにはこのノイズに打ち勝ってくる信号のみが受信できるという状況で、日本時間の午前2時ころから夜明けまでの一時間がこのノイズレベルが低下しますので(それでもノイズレベルはS8くらい)3.5MHz

5ページに続く

JAIG 大阪ミーティング特集 (2)

JAIG Treffen に参加して

JA4HCK 馬場 秀雄

このたびの JAIG 大阪ミーティングに参加することを決め JA3AER 荒川さんに電話しました。夜の総会には出席者が多いが、日中はみな忙しく観光の参加者が少ないと心配されていたので、前日の夜に大阪に入り朝からのプログラムに同行する事にしました。ドイツには 1979 年に一度だけ行ったことがあります。ボーイスカウトでキャンプ場を訪問しアップルワインをいただき美味しかったのが印象に残っています。さっそく日本に帰ってアップルワインを購入して飲んでみたのですが味がまったく別物でした。夜遅く大阪に着くと寿司を食べたいというドイツの人達と JA3UB 三好さんが待っていて一緒に寿司を食べに行きました。

26 日朝、地元の参加者 JA3AER 荒川さんと JR3MVF 三好夫人と私の 3 名にドイツから来た人達合計 29 名が観光に出かけました。一方 JA3AA、JA3UB、JE3BEQ それに DK9QZ はアイハウスで茶道お手前の準備等をしてられました。

バスで配布された JA3QUU 手作りの観光資料は 16 ページにおよび、日本語版、ドイツ語版とあり内容が詳しく解りやすく出来ていて感心しました。



まず四天王寺拝観。偶然にも和尚さんがドイツで修行した事があると言って皆の道中の安全を祈念してお経をあげて下さいました。仏像の前で隣の女性がドイツ語で話しかけてきました。「?」アア! ドイツ語勉強しておけばよかった。英語と身振りで会話。仏像の手の型の意味は?。薄識で答えましたが、親指と人差指で作った輪の意味を聞かれて困りました。こんな時、JH3GAH 後藤さんが居たらなあと思いましたが、彼もあれこれ忙しくして知らないかも?。阿弥陀如来だったので、死んだらウエルカムといってくれろと言っておきました。横の十一面観音もそれなりに説明しておきましたが、それを又隣の人にドイツ語で説明していました。(大丈夫かなー)。



続いて大阪城。バスに積み込んでおいたお弁当を持って大阪城見学。中で三好という名字みつけた DJ9WH ブッツさん 流暢な日本語で「ミヨシサンノシンセキデスカ」…。そういえば BA4AA 周さんが来られた時も同じ事を言っておられました。見学後、前の広場で昼食。桜が開花寸前で少し残念。



陶磁美術館見学。予約してあったボランティアのガイドが 2 人来て下さいました。ドイツ語出来ないで日本語で説明。DF2CW 忒岐さんたちが通訳しました。よほど関心があるのか一品ずつ丁寧に写真を撮ってました。そして質問「これは価値がなさそうに見えるがどうして良いのか?」我々日本人は良いと言われれば「ホー」と感心して見ますが。ガイドの人は苦笑しながら答えていました。マイセンで育ったという人が特によく質問していました。お茶会(国際交流センター)ではドイツの方は交代でお手前を体験されました。実際体験されて足がしびれた事と思います。その他 J13ZAG 無線室を訪んだり、記念写真を撮ったり。アイボール QSO を楽しんでいました。この後ホテルに戻り夜 6 時よりの JAIG ミーティングまで休憩。JAIG2004 総会。沢山の人が集まり盛会のもと開催されました。ドイツ語と日本語で司会進行され、観光された皆さんも少しおしゃれて会に臨まれました。私は鳥取へ帰るバスの時間がきてしまい。近くの人に挨拶をして、名残惜しくも会場を後にしました。

KANHAM 2004 5月21(金)・22(土)・23(日)

池田市民文化会館にて **JARL 通常総会も同時開催**

当ラジオクラブの出展ブースは二階のコーナー。アイハウス、クリーンデンバ、電波適正利用推進員協議会合同で、机三つを確保しました。背面はガラスで後向けにポスターをテープで貼れば一階入り口やフロアからよく見える位

置です。当クラブからはパネル出展のほか、特別局 8N3DNP の運用も行ないます。ブースの担当はメンバーで時間割を決めますが、希望時間があれば JA3UB 三好さんに事前に申し出て下さい。

私が使ったアマチュア無線機器

JA3UB 三好二郎



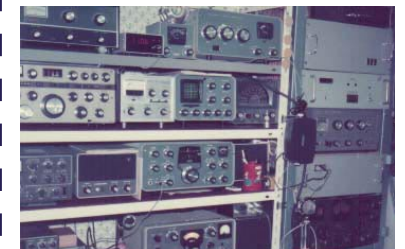
IC-710 を前に



ドレークがメインの頃



IC-780 発売開始の頃



ヒースキットとシグナルワン



真面目(?)に DX



比較的シンプルな頃

TS-480 遠隔操作実験の顛末

JP3AZA 河田至弘

Kenwood の新製品である TS-480 を入手し、インターネットを使用した広域遠隔操作の前段階としてを行いとして家庭内 LAN での制御実験についての顛末をまとめました。

現在の動作状況は家庭内 LAN に 2 台のパソコンを接続し、内 1 台に TS-480 を接続しています。残りの 1 台からは LAN のルーター経由でこの TS-480 を制御します。この状態で上手く動作することが WAN 経由の制御の前提となります。通常の場合、自宅内で確認できる動作としてここまでとなります。

TS-480 の遠隔操作にはいろいろな制約があります。そのひとつは制御用に使用するパソコンの OS が WindowsXp あるいは Windows2000 のどちらかできず動きません。今回は WindowsXp のみでの動作実験を行いました。

また、ルーターはアクトンテクノロジーの SMC7004BR を使用しました。

1. パソコンから TS-480 を制御する。

遠隔操作ではなく単にパソコンで制御のみを行って見るところから開始します。もちろんパソコン付属のマイクを使用し、受信の音声はパソコンのスピーカーから聞くという状態を確保します。

- 取扱説明書に従い接続ケーブルを作って接続します。
- ARCP-480 を Kenwood のホームページからダウンロードしてインストールします。
- 電源を投入してソフトを起動して "con" をクリックして接続が問題なければ受信は動作します。

接続、ソフトのインストールに関しては ARCP-480 の Help に詳しく述べられていますので、ぜひ熟読してからはじめて下さい。

ここでの問題点はパソコンのマイクからの音声は Line Out から TS-480 の Line in 端子に入力されますが ARCP-480 の Control → Setup をクリックしたときの画面で TX-control の DTS をセレクトする必要があります。これをしないと入力制御のアナログスイッチが動かず変調がかかりませんので要注意です。また、これについては取扱説明書にも何も説明がありません。

問題が発生してからホームページにアップされた文書にのみ記載されていますので見逃せば "なんでやねん" の世界になります。

ここまで動けば TS-480 とパソコンの間の動作は OK と判断できますので、これを確認してから家庭内 LAN のルーター経由の制御確認に入ります。

2. ルーターの設定

自宅内で TS-480 の遠隔制御テストをするにはどんな回線が繋がっているかが制御器と被制御器は目の前にないどのような動作をしているのかは判断出来ません。このことから TS-480 の遠隔制御テストは次ぎ様な状態でテストに入りました。

- TS-480 にはダミーロードを接続して動作確

認をする。

- いきなり WAN の使用は難しいので LAN のルーター経由の制御実験とします。
- LAN のルーターの持っているローカル IP アドレスを指定して制御が OK になれば WAN でも殆どの場合問題はないと判断します。
- 電波を出しての遠隔制御には変更申請が必要なので要注意です。

ルーターの仮想サーバーの設定は、複数の接続を必要としているようなアプリケーションにおいてファイアウォール機能が原因での動作不能状態を回避することが出来ます。アマチュア無線のソフトではこのような複数の接続を要求するアプリケーションが数多くあります。今回の TS-480 遠隔制御ソフトだけではなく良く使われている Echo リンク等もそのひとつです。以下に私のルーターでの TS-480 遠隔制御に対応した設定を示します。

先ず、ルーターの管理者ポートにログインして仮想サーバーの設定を次のように行います。

ポート番号	IP アドレス	有効
1	389 192.168.123.110	○
2	522 192.168.123.110	○
3	1503 192.168.123.110	○
4	1720 192.168.123.110	○
5	1731 192.168.123.110	○
6	50000 192.168.123.110	○

このポート番号を有効にするために「有効」のところにチェックを忘れないでください。

この設定は私の使用しているアクトンテクノロジーの SMC7004BR ブロードバンドルーターでの例を示します。他社のものは対応する項目にて設定して下さい。

3. パソコンの設定

設定に入る前に自分のパソコンが持っているルーターから割り振られたローカル IP アドレスを知っておく必要があります。これは次のようにして知ることが出来ます。

- 画面左下の「スタート」をクリックします。
- 次にすべてのプログラムをクリックするとプログラム一覧が出てきます。
- 一覧の中から「アクセサリ」を選択して出てきたメニューの中から「コマンドプロンプト」をクリックします。
- 新しい画面が現れコマンド待ちの状態でカーサーがウインクするのでここにつぎのコマンドをキー in します。
- ipconfig(cr)
- これに対してパソコンからの応答にはローカルエリア接続の諸表が返されますので、その中にある IP Address が必要なものです。私の場合 : IP Address: 192.168.123.110 と返ってきますのでこの 192.168.123.110 が自分のパソコンのローカル IP アドレスになります。ルーターを繋がらない状態でこのコマンドを実行すると、返ってきた IP アドレスは WAN(インターネット上)の IP アドレスを示します。

次にパソコンのネットワーク関係の設定を行い

ます。この設定は次の手順で行います。この設定は制御に関係するパソコン全部に必要です。

- 「マイコンピューター」をクリックします。
- 「マイネットワーク」をクリックします。
- 「ネットワークの接続を表示する」をクリックします。
- ネットワーク接続の "画" を右クリックします。
- 出てきたメニューのなかから「プロパティ」をクリックします。
- ローカルエリア接続のプロパティの「詳細設定」をクリックします。
- インターネット接続のファイアウォールの にチェックを入れます。
- この後「設定 (G)」が現れるますのでこれをクリックします。
- 詳細設定が画面が現れるので追加をクリックして以下の設定を行う。
 - サービスの説明
誰が見ても分かるように何のための設定かを説明します。
 - IP アドレス
前記の所で調査した結果のアドレスを記入します。
 - このサービスの外部ポート番号及び内部ポート番号
外部ポートと内部ポートは同じ番号を記入します。こればポート一つ一つしか記入出来ませんので、順番に追加 ~OK までを下記の表のデータに従って繰返し入力し、該当するプロトコルの 所にチェックを入れます。

TS-480 で使用しているポート番号

サービス	ポート番号	TCP/UDP
ILS	389	TCP
ULS	522	TCP
T.120	1503	TCP
H.323 Call setup	1720	TCP
Audio call	1731	TCP
H.323 Call control	50000	TCP
H.323 Streaming	50000	UDP

10. ARCP-480 と ARHP-10 の設定

Kenwood のホームページからダウンロードしたコントロールプログラムをインストールし、その setup を行います。Setup 等の説明はすべて該当プログラムの Help に明記されていますので、この指示に従って Setup します。Setup の中でも IP アドレス、パスワードなどが必要になりますので指示にしたがって入力します。

以上が完了すると問題が無ければ TS-480 を接続したパソコンでは ARHP10 をスタートさせ、他の一台では ARCP-480 を走らせます。ソフトが走って "con" をクリックしてタリーが無事点灯すれば制御 OK となります。

4. WAN 経由の遠隔制御

現時点では Kenwood の ARHP 及び ARCP の制御ソフトは通常ではルーターを介しての制御に

1 ページから続く

はこの時間帯を中心に運用し出来る限り多くの QSO を目標にしました。しかしどうしてもコールサインの確認できなかった局がありましたことは残念に思っています。加えて現地の 3.5MHz 帯には業務用の無線局が QRV していて、こちらも政府の免許を持っているからと言って混信問題を起こすようなことも出来ず、おのずと運用出来る周波数が限られ 3515KHz、3540KHz、3557KHz、3565KHz 付近のみがクリアな周波数でした。結果的には JA の状況が現地ではよくわからないので周波数を確保してくださいました皆様にはご苦労をお掛けしました。

しかし、ハイバンドは JA の状態と大差なく 14/21MHz は快適な運用が出来、特に 21MHz ではペランダアンテナの局からモバイル局まで FB な QSO が出来ました。

鳥インフルエンザ

心配していた鳥インフルエンザですが、訪越前に現地在住の人と E メールによる問い合わせでも「問題ないようです」との返事でしたが、実際にベトナムに来て自分の目で見た結果として、鳥を使った料理が多いベトナムの市場では鳥の影も形もなく、レストランでも「鳥を使った料理はありません」とのことでした。私は現地の言葉は判りませんが翻訳してもらったところでは現地のテレビ放送では「鳥インフルエンザは押さえ込んだからもう大丈夫です」とのコメントを出していました。

外食とレストラン

今回投宿したホテルは朝食のみがホテルで出のですが、昼、夜は外食でした。このおかげとってはなんです結構あちこちのレストランを食べ歩きました。しかし、日本人は病原菌に対する抵抗力が弱く、熱帯地方では食中毒に最大限の注意が必要です。水道水と言えどもそのまま飲むのは要注意です。氷も同じで水道水を凍らせたものは同じと思ってください。飲むならミネラルウォーターかビールがお勧めで、安心は火を通した料理を食べている限りは大丈夫でしょう。ベトナム料理で「Hot Pot」と呼ばれ鍋料理がありますがこれは熱いけど結構美味しかった。特に冷たいビールとのマッチングは最高でベトナム製の「333 ビール」(バーバーバービヤ)はなかなかのものですしい(一本 50 円くらいかな)。腹いっぱい飲んでたべても合計で 500~600 円くらいです。また、国営のホイアンホテルの料理は最高に美味しいし、日本人だと言うと片言の日本語を話せるメイドさんを付けてくれます。ダナン市にある「さくら日本語学校」の卒業生が多いようです。

さいごに

厳しい条件下で運用をした 3.5MHz 帯におきましては JA 各局に大変お世話になりました。また、現地の条件が厳しかったためどうしても空いている周波数を確保できなかったこともあり、お願いした結果、ローカル通信を中断して周波数を空けていただいた各局には御礼申し上げます。また、リニアアンプの真空管をご寄贈いただいた JA4DW 小野さん、QSL マネージャーを引き受けて頂きました JA3DYU 太宰さんにこの場を借りまして御礼申し上げます。有難うございました。

また、いつか、どこかに出かけるチャンスがありましたら FB な QSO よろしく申し上げます。

4 ページから続く

対応していません。ただ、H.323 などのプロトコルに対応したルーターを送受双方にセットすると可能かも知れません。このあたりは非常に大きな問題で、ルーターなしでの回線接続は侵入などに対して危険極まりないものと判断しています。

Kenwood には早急にこれらソフトをルーター経由で制御可能のようにアップデートされることを希望します。

その他 これまでに気付いた問題点

- 本体とパソコンのケーブルについて
TS-480 にはコネクタが付属してケーブルなどは自前で用意してやることになっています。この付属のコネクタに多芯ケーブルを半田付けするのは結構難しいので(私は不器用なので)特にやりにくかったのですが、このコネクタはパソコンの PS/2 キーボードの延長ケーブルの片方のコネクタがぴったり合いますので、私は中古のキーボード延長ケーブルの TS-480 側と反対の方にミニプラグを取り付けて使用しています。不器用な方はお試しください。
- ARCP-480 のソフトについて
このソフトはフォアグラウンドでしか動作しません。遠隔操作で使用するときにはこれ以外のソフトは使用出来ません。これがなぜ問題かと言うと、アマチュア局でパソコンを使用している局はログがパソコンに入っていて、ARCP-480 を動かすとログソフトは使えなくなります。どうしてもとなるとパソコンが 2 台必要になります。
- 私の提案
TS-480 のコントロールパネルはそれ自体データを発生して本体とデータ通信によって制御と表示を行っています。このコントロールパネルそのものを制御端末として使用し、つまり 4m の接続ケーブルの部分をインターネットに置き換えると考え、これを動かすソフト及び音声伝送用のソフトをバックグラウンドで動作する仕様になれば、フォアグラウンドでログソフトも使え一台のパソコンですべて解決できます。更には TS-480 から周波数、電波形式、をログソフトに渡せるように出来れば FB です。(移動先では KNS を使用するので可能と思われるが、自局内でパソコンから ARCP480 で制御しているときは COM ポートを使用するので、この対応が必要と思われる。)
- メーカーの姿勢
問題が発生した時点でメーカーと対話しましたが、TS-480 については懇切丁寧でしたが、ソフトとなるととたんに歯切れがわるくなりユーザーとしては大変不満足でした。
不明快だった点は
1) IP ポート数と番号が取扱説明書に明記されていない。パソコンとのハードウェアの接続の説明はあってもソフトのインストールにかかる説明が取扱説明書に明記されていない。
2) トータル設計が実際のアマチュア無線局の運用状態そのものを想定していない。パソコン

を繋いで単に動くだけのものでは設計者の自己満足だけの世界になってしまう。ユーザーはメーカーの守備範囲など関係なく無線局の運用状況を問題にしています。メーカーも自社内にクラブ局がありますので実際に運用してみれば問題点は簡単にでてくると思います。(単なる電話ごっこの運用ではなく過酷なコンテスト、DX ペディションのパイルアップへの参加などでどこまで追従できるかの問題)ユーザーが何を望んでいるかを知るのが最大の問題でしょう。

- 設定においてあちらを見て、また、こちらを見てそれでも分からなければ Help を見て……こんなややこしいことは実際的ではありません。少なくとも取扱説明書、あるいは設定指示書など 1 冊にまとめるべきでしょう。
- 遠隔操作にかかる申請手続きについても取扱説明書には一切記述されていません。わずかにホームページで申請例があるだけで、これについてもあちらを見て、こちらを見て結構ややこしい。遠隔操作は現時点では継子扱いになっているという感じですね。
- はっきり言って遠隔操作での CW は使い物にならない。これもベテランの運用状況とはかけ離れたもので、キーヤーは移動現場に必要なもので使えないのは致命傷になります。
- WAN 経由の遠隔操作の質問に対してのメーカーからの返事としてルーターなしでの使用、あるいは DMZ 機能などオールパスの設定を言っています。これは、運用上回線に繋ぎっぱなしの使用状態になるので侵入等に対しては無防備となり危険極まりない運用方法と判断しています。早急な善処方が待たれます。

生まれて間もない TS-480 ですが、この機種については遠隔制御が出来ることのみが大特徴と言える機種なので(200W の移動局は電波法上アングラの世界と思っています)この部分の説明に手を抜くと、せつかくの特徴を持って生まれた意味がなくなります。メーカーさんとしては逃げずにやっていただきたく、今後の対応の充実に期待しています。

大阪国際交流センターラジオクラブ
JI3ZAG

Web: <http://ja3.net/ihouse>

Newsletter
http://www.ja3.net/ji3zag_nl
会報を自由にダウンロードすることができます

ロールコール
毎週土曜日 9:00JST@14.160MHz

月例会
大阪国際交流センター
毎月第 2 金曜日